

保育サポートシステム通信 vol.2



「長崎県医師会保育サポートシステム」のサポーターや、子育て中の医師をつなぐ広報誌です。関係者の皆様に有益な情報を提供するとともに、よりよいシステムにしていくための情報交換の場になればと考えております。



ひとことメッセージ



長崎県医師会男女共同参画委員
長崎県福祉保健課課長補佐

藤田 利枝

“子育ては〇〇”

“子育ては〇〇”。〇〇の中に入る言葉は、日々発見、一喜一憂、百戦錬磨、体力勝負、生き甲斐、も～大変！などなど、人それぞれだと思いますが、皆さんはどんな言葉を思い浮かべますか？

私の場合は、「子育てはおかげさま」でしょうか。私は子育て歴13年の間に、たくさんの方に色々な形でサポートをして頂きました。家族はもちろんのこと、保育園、学校、学童、そして職場でも。仕事が多忙な時、保育園から職場に連れ帰った娘を、“私の家で夕飯もお風呂も済ませとくから”と同僚が自宅へ連れて行ってくれたり、学校の同級生のお家にお泊りさせてもらったり、学校で寂しそうにしている娘を担当の先生がたくさんハグして安心させてくれたり、思い返すと感謝・感謝の毎日です。

本システムは、そんな“おかげさま”が詰まった仕組みです。子育て中の皆さん、頑張る事も必要ですが、手を差し伸べてもらえる時には、頼ってみることも必要です。始まったばかりで手探りの部分もありますが、皆さんが利用することでより良いものに発展させることもできます。本システムで、皆さんの中に笑顔が増えることを願っています。

保育サポータースキルアップ研修会とサポーター情報交換会



第1回 スキルアップ研修会 平成27年1月22日(木) 長崎県医師会館大会議室

「子どもの看病と手当ての仕方（一次救命処置を含む）」という内容で日本赤十字社長崎支部の石橋指導員と森永指導員に講習していただきました。

リビングと風呂・脱衣所のどこに危険が潜んでいるのかの確認と、発熱やせき、嘔吐、下痢などの各症状の対処法について説明がありました。特に、脱水症にならないよう水分補給には十分気をつけ、常に子どもを良く観察することが大切だということ学びました。

「気道異物の除去、心肺蘇生・AEDを用いた一次救命処置の方法」では、幼児と乳児の人形を使って、胸骨圧迫や気道確保の実習をしました。いざというときに対処できるよう、3回は実習を受けてほしいということでした。

第1回 サポーター情報交換会 スキルアップ研修会後

7名の活動経験者から、実際の活動の様子や、その中で感じたことを発表していただきました。

「信頼の積み重ねが大事」「子どもをしっかり見ることが大切」「実家のお母さん代わりと思ってもらっている」「(お子さんが)膝に乗ってくれたときは嬉しかった」などの感想を述べられ、安全面に気をつける目と、愛情たっぷりの目でサポートしていることが伝わってきました。

発表の後、自由に歓談する場面では、参加者同士がすっかり打ちとけた様子で、今回のサポーター同士のつながりが、今後の活動に活かされていくと感じました。



サポーターの声

私は60代後半です。3人の子供たちの、合わせて6人の孫を週末に預かり、遊んだり食事等を作ったりしていました。その孫たちも小学生、幼稚園となり、預かることも少なくなりました。そんな折、寂しさを埋めるかのように「保育サポート」のお話をいただきました。1歳のかわいい男のお子様の保育園お迎えです。ご自宅で留守を守っておられるおばあ様へお子様をお連れするのですが、その時のお子様とおばあ様の嬉しそうなお顔を拝見すると、無事にお渡しできてよかったと私まで嬉しくなります。

1週間に1度の活動ですが、成長の早さにはびっくりいたします。最初のかたい表情でしたのに、今では笑ってくれお迎えを喜んでくれます。おばあ様ともお子様の様子を話したりして、毎回楽しくサポートさせていただいております。ただ、楽しい中にも一瞬の油断は禁物ということをお忘れずに心がけています。

安心できるシステムと素敵なコーディネーターの方々に感謝し、先生が安心してお仕事に励んでいかれますように、お役に立ちたいと心から思っております。



利用者の声

私は大学病院に勤務する男性医師です。妻は専業主婦で3歳と1歳の子供がいます。私も妻も実家が他県にあり、妻が体調不良で動けない時など助けに来てくれる親族がおらず、妻からのヘルプコールで早退して家事をこなし、夜に病院に戻ることが度々ありました。同僚の女性医師より保育サポートシステムを聞き、思い切って相談してみたところサポーターさんに来てもらえることとなり大変感謝しています。私と同じような環境の男性職員は他にも多数いると思います。今後システム利用の輪が広がっていくことを期待しています。

主人より保育サポートシステムの話聞きすぐ登録をお願いしました。専業主婦ではありますが、自分も子供たちも風邪をこじらせてしまった時など気合いだけではどうしようもないことが多々ありました。主人に助けを求めることもありましたが、学会や当直など不在のことも多く、不安な時もありました。担当のサポーターさんには「困ったときは遠慮せずに自分の親代わりだと思ってすぐに連絡してちょうだいね。」と言われました。サポーターさんが近くにいることが私の気持ちの支えとなっています。

お知らせ

●習い事や塾等へ送ってほしいというリクエストにもお応えできます

習い事や塾などへお子様一人で行かせることに、不安を感じる方も多いのではないのでしょうか。特に来春からお子様が小学生になられる方、この機会に保育サポートシステムをご利用されてみませんか？

●リハーサル

支援活動の前に、サポーターさんと利用者・お子さんとの顔合わせや短時間の保育（慣らし保育）、また、必要に応じて保育園への挨拶、場所確認のことを「リハーサル」と呼んでいます。昨年11月から原則として、必ず行うことになりました。1人のサポーターに対して1回1000円の報酬を、当システムからお支払いします。利用者からも、あまり気を使わずにリハーサルができると好評です。

●病児保育モニター利用券

保育サポートシステムの病児保育を1度体験してもらい、利用後のご感想やご意見を今後の活動に役立てようと昨年11月に病児保育モニター利用券を発行しました。適用期間が、**平成27年2月28日まで**となっておりますので、ご留意ください。



本の紹介

「認定病児保育スペシャリスト試験 公式テキスト」

一般財団法人 日本病児保育協会（著）
久住英二（監修） 英治出版（発行）
定価：本体 ¥2,200 + 税



おすすめポイント！

保育者の立場から病気の子とも接するときの心構えや対処法などが書かれていて、わかりやすい本でした。

現在の状況

平成27年1月31日現在

保育サポーター登録者	59名
申し込み医師	17名
サポートを受けた医師	7名

【長崎県医師会保育サポートシステム】

問い合わせ先

▶長崎県医師会

〒852-8532 長崎市茂里町 3-27 TEL.095-844-1111 FAX.095-844-1110 <http://www.nagasaki.med.or.jp/>

▶長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター

〒852-8501 長崎市坂本 1-7-1 TEL&FAX.095-819-7979 <http://nagasaki-ajisai.jp/>